

2020年2月3日 Vol.157

### 株式相場に波乱をもたらしたパンデミック

波乱の幕開けとなった 2020 年の株式相場は一時昨年の高値を更新するのではとの期待も高まったが、予期せぬ出来事の発生で再び波乱の動き。昨年末に発生した中国・武漢市発の新型コロナウイルスによる新型肺炎は春節に入った 1 月最終週から春節明けとなる本日にかけパンデミック（世界的流行）の様相をもたらした。株式相場はこうした状況を懸念して、先行きへの不安感から一段と波乱の様相を見せている。先週末のNYダウはパンデミックによる世界経済への影響を嫌気して 603 ドルもの下落となった。これを受け週明けの日本の株式相場も春節明けとなる上海株式相場の大幅な下落を想定、先取りし日経平均が一時 400 円以上の大幅な下落を見せたが、上海の総合指数が 2750 ポイント前後で落ち着いた推移を辿ったことから、終わってみると下げ幅が 233 円に留まるなど比較的底堅い展開となった。問題はここからの相場展開。パンデミックを懸念しての先行き不安を反映した株式相場は限られたパンデミック関連銘柄に限定的な個別銘柄の株高をもたらしたものの、短期的で急激な株高にはついていけない投資家も多く、限られた投資家がリスクを覚悟して短期運用対象として同関連株を売買している状況だろうと推察される。全体の潮流は明らかに中国経済の先行きに不安感を覚え、中国への依存度の高い企業を中心に売り物勝ちにさせている。一連のマスク・除菌・防護服などのパンデミック関連銘柄は過去 1 週間で株価が急騰を演じており、かなり過熱気味になってきたことに加え、横に広がりを見せてきたことから本日は売り物がちの展開を見せており、かなり警戒感も高まっている。新型ウイルスの場合は既存のワクチンは効果がなく新たな開発が必要でその期間は 6 か月から 1 年とされる。この間に最悪の事態となるパンデミックを国家の威信をかけてどうやって防ぐかが問われている。中国では感染者数も死者も日増しに増加していることは伝えられており、この先も予断は出来ない。一方で対応策も中国国内だけではなく中国以外の諸外国でも進展しつつある。中国・武漢では感染者を受け入れる大規模な病院が完成しつつあり、感染者の収容が始まろうとしている。タイでは抗 HIV ウイルス剤とインフルエンザ薬との混合で効果があったなどと報道されたほか、日本でも簡易な検査キットを準備しているとの話で多少でもポジティブな対応が話題になり始めていることは朗報と言える。心配された全体相場のクラッシュのような極端な下落も見られず、比較的落ち着いた動きが見られたことから週明けのNYダウも落ち着きを取り戻すとの期待が持てる。

こうした全体相場が波乱を見せる中で 2020 年の IPO が 2 月 7 日から始まる。今年初の IPO 銘柄となるのは、事務機器等のレンタル事業を展開するシェアリングエコノミーのコーユーレンティア（7081・JQ・公開価格 1890 円、時価総額 100 億円）と地域の情報掲示板として月間延べ 1000 万人が利用するクラシファイドサイト「ジモティー」を企画・開発・運営するジモティー（7082・M・公開価格 1000

## 東京 IPO 特別コラム

---

円・時価総額 56 億円) の 2 銘柄。この後に続くのが 25 日に IPO を予定している障害福祉事業、介護事業などを展開する AHC グループ (7083・M)。更に 3 月はコシダカ HD からスピノフして上場するフィットネスクラブを展開するカーブス HD (7085・未定) が 2 日に IPO を予定。4 日には認可保育園を展開する Kids Smile Holdings (7084・M)、6 日には葬儀サービスを展開するきずな HD (7086・M)、製造請負のウイルテック (7087・T2)、10 日にはビジネス分野特化のナレッジシェアリングプラットフォームを運営するビザスク (4490・M) が登場する。こうして多くの個人投資家の皆さんが心待ちにしておられる IPO 相場が波乱相場の中で始まる。2020 年の IPO 市場の動きにまた大いに関心を持って頂きたい。

(東京 IPO コラムニスト 松尾範久)